

川崎

田園都市
相模原 川崎
厚木 横浜
湘南 横須賀

川崎支局

〒210-0007 川崎区駅前本町12-1
川崎駅前タワー・リパーク8F
☎044-222-3588 F a x 222-3580

田園都市支局

〒225-0002 青葉区美しが丘5
☎045-904-4341 F a x 904-4356

横浜支局

〒231-0023 中区山下町51-1
☎045-201-7992 F a x 201-8341
メール yokohama@yomiuri.co.jp

湘南支局

〒248-0033 鎌倉市腰越5-13-33
☎0467-32-6861

横須賀支局

〒238-0008 横須賀市大津町1-19-4
☎046-823-0078

相模原支局

〒252-0231 相模原市中央区相模原4-3-14
☎042-752-0255

厚木支局

〒243-0018 厚木市中町3-15-4
☎046-221-5100

高津通信部 044-328-5901
平塚通信部 0463-24-4114
小田原通信部 0465-34-5188
秦野通信部 046-221-5100

ホームページ

www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
Y 0120-4343-81

川崎読売会 044-233-6286

【広告】読売エリア・アド 045-201-1000

【新聞折込】読売 I S 神奈川 045-212-2781

【旅行】読売旅行 03-5550-0666

7月13日(土曜日)
旧 6月11日<仏滅>

月齢10.3
(正午)

—横浜標準—

日出 4.36 満潮 0.53
日入 18.58 干潮 15.38
月出 15.44 干潮 8.26
月入 1.27 満潮 20.25
(若潮)

あすの暦

東京五輪に向けて結束を確認した黒岩知事
(右から3人目)ら(11日、横浜市西区で)



競技会場の首長ら「世界驚かせる」

ラグビーワールドカップ(W杯)まで約2か月、東京五輪・パラリンピックまで約1年と迫る中、競技会場となる自治体の首長らが11日、横浜市内のホテルで合同総会を開いた。「日本らしさ」「神奈川らしさ」を前面に出した観光誘致策を発表。黒岩知事は「一体となって世界を驚かせたい。『おもてなし』の気持ちで大成功させよう」と呼びかけた。

この日集まったのは、黒岩知事のほか、ラグビーW杯と東京五輪の野球・ソフトボール、サッカー会場となる横浜市の林文子市長、自転車ロードレース競技のコースとなる相模原市の本村賢太郎市長と山北町の湯川裕司町長、セーリング会場となる藤沢市の鈴木恒夫市長の計5人。

大会に向けた会場整備やボランティア育成の状況などを報告した後、拳をあげて氣勢を上げた。ラグビーW杯に向けて、県や横浜市は来月から同市内の主要駅に垂れ幕や旗を掲げ、街を「ラグビー一色」に装飾すると発表。みなとみらい21地区に設置される。

東京五輪・パラリンピックの期間中には、大画面で競技を見られるパブリックビューイング(PV)や競技体験ができる「ライブサイト」が県内5か所に設置される。

あきらめない気持ちの大切さを伝える
石井雅史選手(11日、藤沢市西宮で)



電動工具・建築金物
道具のフルモト
零川神社手前
0467
(74)3300

母親刺され死亡
26歳息子、殺人未遂容疑
小田原署は11日、小田原市上新田、自称アルバイトの鳴海拓也容疑者(26)を殺人未遂容疑で現行犯逮捕した。

W杯・五輪 成功誓う

演奏楽々 弦楽器肩当て

川崎の音楽家2人と町工場2社開発



●完成した肩当て「ほまれ」を装着したバイオリンを囲み笑顔を見せる
(左から)細川さん、肥田さん、二宮さん、松井さん(川崎市中原区宮内町のモルテックで) ●「ほまれ」のバイオリン用肩当て(上)とバイオリン用肩当て

者(肥田与幸さん(43)(麻生区)と協力。2017年8月から本格的に肩当ての開発を始めた。2人は演奏中の動作を楽にしようと、鎖骨を圧迫せずに肩甲骨を自由に動かせる形状を構想。イメージ図

や模型を試作して多くの業者に製品化を打診したが、詳細な設計図面がなく、断られ続けた。そんな中、親身に相談に乗ってくれたのが、樹脂・プラスチック加工の「細川樹脂」(中原区)と、プラスチック金型の「モルテック」(同)だった。細川樹脂は、当初は複雑だったデザインを話し合いながらシンプルな構造に変え、1年がかりでアクリル素材の肩当てを完成させた。細川真澄社長(58)は、図面がないところから作るの

は難しいが、2人の熱意を感じた。イメージを具体化できて良かった」と話す。モルテックは、肩当て本体と楽器の接点となる「足」の部分を担当。外れにくい装着方法を工夫し、傷つけないくプラスチック素材を採用した。松井宏一社長(58)は「楽器の縁を挟むプラスチック(エラストマー)は、溝幅や角度を何度も見直した。感覚を数値化するのが大変だった」と語る。

こうした試行錯誤を経て、今年1月に「ほまれ」が完成。バイオリン用(69センチ)は税別で3万2000円、ビオラ用(77センチ)は3万3000円で、これまでに計約350個が売れたという。

「ほまれ」を製作・販売する会社「HOMARE」を設立した二宮さんと、肥田さんは「むしろ依頼に

体の負担減 ノイズ少なく

応えてくれた2社には感謝の気持ちしかない。ノイズも少なく、画期的な製品に仕上がったので、良さをPRして販路を海外にも広げたい」と話している。

あきらめない心 後輩に説く パラ金・石井さん

北京パラリンピック(2008年)の自転車競技で金メダルに輝いた藤沢市の石井雅史さん(46)(藤沢市みらい創造財団、非常勤職員)が11日、母校の藤沢学園藤沢高校と、同藤沢中学を訪れ、後輩たちにあきらめない気持ちの大切さを訴えた。

石井さんは同高を卒業後、競輪選手としてデビュー。しかし2001年7月、県内の峠で練習中に乗用車と正面衝突し、頭を強く打った。1か月後に意識は戻ったが、高次脳機能障害が残るなどし、選手としての引退を余儀なくされた。それでも5年間のリハビリを続け、障害者の自転車競技の選手として再起を果たした。パラリンピックでは金メダルをとった北京大会のほか、ロンドン大会やリオ大会でも入賞。今も左足に軽いしびれが残るが、東京大会出場という新たな目標に向けて練習を続けている。

石井さんは「ヘルメットがなかったら即死だった」と、生徒らにヘルメットの着用を呼びかける一方、「自分が思っている願いは、口にしないとかかわない。どんなにつらい経験でも、必要だったのだと思える日がきつくる」と、気持ちを強く大切さを強調した。高校2年の男子生徒(16)は「決してあきらめず、くじけない生き方を見習いたい。願ひ続ければかなうという話にも感動した」と感想を語った。